

## メディアタイムズを活用した、対話を通して学びを深める授業作り

川崎市立新城小学校 教諭 東 利樹 (片岡義順)

### 小学校5年生 国語 メディアタイムズ

第8回「どこまでがOK 著作権」・・・著作権についての知識を得るだけでなく、子どもたちが**主体的にメディアにかかわっていく態度を育成する番組**。無断で行う二次創作はどこまでOKなのか？ すべて禁止すべきなのか？ 私たちはどう向き合うべきか考える。

#### 【授業の概要】

国語の教科書（光村図書）で扱っている著作権について番組視聴を通して理解し、著作物の先に人の思いや大切な財産が関係していることを学んだ。本番組で扱っている「二次創作」は、複数の子どもが日常的に触れている実態もあった。授業を通して、著作者の思いや二次創作が世の中でのどのような反応を受けているのかについて知ることで、二次創作が「良い」「良くない」からの2つの立場だけでなく、お互いの良さを生かす方法の模索についてそれぞれの立場から意見を述べ合い、考えを深めていくことができた。

#### 【授業デザイン】

#### 5年国語「著作権について知ろう」（光村図書）

**導入** 他人の絵を勝手に模写した事例を例示

#### 番組視聴（10分）

メディアタイムズ第8回  
「どこまでがOK 著作権」

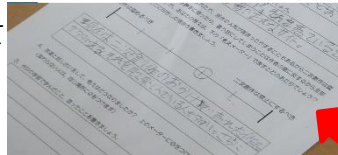


#### 内容（知識部分）を確認

- ・著作権とは
- ・二次創作について
- ・身の回りの二次創作について

#### 自分の考えを表明

①自分はどうのように考えたのか、理由とともにWSに書く。



②考えを表明し、友達の考えにふれる。



#### 話し合いを通して考えを深める

- ・自分の考えについて発言をし、異なる意見についても考えたことを伝え合う。
- ・対立する意見だけでなく、どちらの考えも取り入れた第3、第4の考えについて話し合う。
- ・話し合い後、自分の考えを再度まとめてワークシートに記述する。

＜児童のワークシートより＞

○二次創作の被害を受けている人は収入が減ったり売れなくなったりして、**心が折れてしまう**。しかし、逆に二次創作を認めている人は、その漫画がおもしろいとまた売れ始めて**利益が増した人もあるからなんともいえない**。けど、被害を受けている人の努力を無駄にははいけないから、やはり禁止すべきだとは思う。

○はじめは**二次創作は禁止**するべきだと思っていたけれども**みんなの話を聞いていて、いいとは言えないけれど、楽しんでる人もあるから完全には禁止にはできない**と思った。

#### 【今回の実践における番組効果】

2. 新鮮な経験を与えて、豊かに想像力や学習への興味を育てる。
  4. 児童の思考を広げ、学習への意欲を向上させる。
  5. 日常的な事象に対して、新たな見方や感覚を与えて、課題を発見する。
- 1 2. よりよいコミュニケーションのあり方を示し、学習者の対話による学びを促進する。

#### 【メディアタイムズ番組活用のポイント】

##### ①番組視聴を通して全員が共通の課題を考えられる

番組内のドキュメンタリー部分とドラマパート部分で二次創作が社会の中でどのようなことを起こしているのか身近な例をもとにわかりやすく伝えている。視聴した児童が共通の視聴体験をすることで、その後の話し合い活動へと進めていきやすい。

##### ②二項対立に偏らない考えを促すワークシート

番組では、二項対立の意見が提示される。授業では、この二項対立のどちらかだけでなく、2つの間やどちらかよりというような多様な考えを表現できるようなワークシート（心情スケール図）を使用した。また、黒板に掲示した心情スケール図上に、自分の考えを表明するネームプレートを張ることで、学級全体で視覚的に共有できるようにした。

##### ③主体的にメディアとかかわる視点での意見交換

授業の後半では、児童も身近に二次創作（動画共有サイトなど）とふれていることを確認したうえで、二次創作の作品をどのように捉えていけばよいのか、原作者や二次創作する人の立場、二次創作作品を目にする受け手側の立場にたって、意見を出し合った。現実には起きている、それも自分達の生活の中でも二次創作作品と触れているということに気がつくことで、さらに考えが深まっていった。

#### 【成果と課題】

二次創作をどのように受け止めたら良いかということで対話を通して考えを深めていく授業となった。子どもたちの意見の中には、著者の立場、二次創作する側の立場、二次創作した作品を受け取る立場の三者の視点から考えを伝え合うことができた。番組で投げかけている二項対立がクラスでの話し合いを活発にしてくれた。

本実践では、番組視聴とその後の話し合いを通して、考えを深めたり広めたりしていくことができたが、子ども達の意見交換が活発になった分、授業時間を多く使うことになった。授業時数確保が厳しい状況ではあるが、番組が話し合いを促しているだけに、その後の授業計画では話し合う時間の保障を大切にしたい。